

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300321		
法人名	社会福祉法人 善友会		
事業所名	グループホームさざんか		
所在地	長崎県諫早市小長井町小川原浦654-5		
自己評価作成日	令和4年7月2日	外部評価結果確定日	令和4年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvsocoId=4271300321-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvsocoId=4271300321-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年7月27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である、医療法人七久会山崎病院が隣にあり、緊急時に迅速な対応や日常の健康管理が適切に提供できる。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の前は有明海が広がり、見晴らしがよい所に建っている。隣接する協力医療機関の山崎医院との連携については、施設の非常口にエレベーターが設置されており、通常受診や非常時に適正な受診が出来るよう配慮されている点を評価する。通常時は2週間に1回往診の内科健診を受けており利用者の変化にも気づきやすい環境にある。レクリエーション時において、時折運動を取り入れた体操をしており、ご家族より手足に力がついてきて前よりトイレがスムーズにできるようになったと好評であった。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践できている。	「人が真んなか」という法人理念を受けて施設では「みんなで暮らしを楽しむ」を理念に掲げ、食事や日常生活において編み物を趣味としている利用者に毛糸の購入をご家族に代わって購入し継続して楽しんでもらったり、パズル、ぬり絵等を一緒に楽しみながら生活出来るように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には行っていない。	コロナ禍において地域とのかかわりが非常に少ないのが現状である。運営推進会議の議事録を自治会長へ郵送している事に留まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告がほとんどである。	運営推進会議の議事録内容については、前任者が作成した議事録を踏襲している。前回外部評価において、運営推進会議議事録をご家族へ送付する事を望む事を受け、現在は利用者ご家族へ送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的には取り組めてない。	市町村との連携については介護保険の更新、区分変更時や認定調査時において利用者の身体、精神面での状況等を報告している。施設広報活動としては、運営推進会議議事録に加え利用者の生活状況を写真にして報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解して取り組んでいる。	身体拘束に関しては職員一人ひとりが認識しており、これまで身体拘束は行われていない。3ヶ月に1度職員会議時に身体拘束について認識を再確認して利用者の介護に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	注意をはらい防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明ができている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族なら契約時利用者様からはお茶の時間等にご意見等聞いている。	施設利用契約時に利用者に関する要望を聞き取り、介護支援に繋げている。最近コロナ禍においてはご家族から面会に関する質問が増えている。現在面会に関しては、窓越し面会を行ってもらっており、コロナの状況次第では直接面会を実施したいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見や提案をだしてもらっている。	月1回の職員会議は原則、全員参加により実施している。職員に対しては定期的に面談は行っていないが、職員の様子等をふまえて体調不良の職員へは、施設長自ら声かけを行い、無理をさせない勤務に心掛けている。施設長が作成する勤務表についても希望日の休みを設けたシフト表にするよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備            代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職場が明るくなるよう努めている、。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み            代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職場内、施設外研修にも力をいれていきたい。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上            代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>少しずつ交流する機会を増やしていきたいと思っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にご家族やご本人に困りごとやご要望を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族に困っていることや不安なことやご要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困りことや必要としていることを見極めれるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般において、利用者様本人ができることは無理のない範囲で一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様本人が希望されれば、ご家族様に電話を繋げたり通信などで日常の写真などを送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理美容室等ご本人が馴染みのある所がある場合は継続して利用していただいている。	前年同様に美容室の利用を続けている利用者の他にも理容室から施設に来所してもらい、散髪をしてもらっている。時にはヘアカラーをお願いすることもあり複数の利用者が利用している。利用者の友人から届け物があつた時など、お礼の電話をして旧交を深めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格等を考慮して孤立したり対立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、支援できていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食べたいメニューや利用者様本人がやりたい事等を聞くよう努めている。	耳の遠い方へは耳元で声掛けをしたり、車椅子の方へは、目線を合わせて話すことを心掛けている。食べたいメニューに関しては、お誕生日に肉や魚の選択をしてもらったり、欲しい物の買い物を代行したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時や面会時の際にご家族聞きとりをし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、職員に把握してもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。	介護計画はケアマネージャーが入所時に、ご家族から聞き取りをして作成しているとのことで、作成後は職員にも説明し共有してもらっている。ご家族からの意見として運動を取り入れることにより、運動機能が良くなったとのことである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に変化、気づき等記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	極力母体の山崎病院をかかりつけ医にさせていただいており、医師との良好な関係を維持しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	2週間に1回、隣接する山崎病院の先生が内科の訪問診察をしてくれるため、利用者の変化に気づきやすい。夜間・休日にも内線で連絡が可能で、迅速な対応ができています。薬の管理は職員1名がしているが、服薬前に他の職員が再度確認するというダブルチェックで細心の注意を払っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	山崎病院の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族のみ話し合いをしている。	現在、事業所での看取りなどは考えていない。契約書に記載があるように、利用者に健康上の急変があった場合や治療が必要となった場合は、協力医療機関での治療等が受けられるよう支援する。隣接する特別養護老人ホームへの移行を促すこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域との協力体制は築けていないが、隣の併設の山崎病院と相互連携をとっている。	避難訓練は、隣接している山崎病院、特別養護老人ホーム、グループホームの合同で年に2回(夜間想定1回)実施している。3月の訓練時には、消防署の方より消火器の使い方の指導を受けている。	前回同様で、未だ事業所の避難訓練計画書と実施後の報告書の作成ができていないため、今後の作成を強く期待する。また、備蓄も水のみとのことであるため、同法人の関連病院と連携し独自の食材備蓄を行うことを切に願う。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけをしている。	利用者に対して友達感覚で話しかける職員には、個別にやんわりと指導している。排泄支援に関しては、耳元でこっそりと確認するようにしている。 個人情報の取扱いについては、入所時にご家族より同意をとっている。	利用者の転倒防止等のため、トイレのドアを開けたままでカーテン使用となっていた。以前のカーテンは両開きで中が見えやすかったため、片開きの一枚物に改善しているものの、プライバシーの確保の点から丈を長くしたり隙間から見えない配慮を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ利用者様に決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴の時間以外は、できるだけ利用者様の意思を尊重して生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ利用者様に髪くしをとおしてもらったり、好きな洋服を着ていただいている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備や食器拭きの手伝いをしている。	メニューは職員が交代で2週間ずつ作成している。お誕生日、季節の行事にイベント食も取り入れている。利用者はもやしのひげとりやゴボウのそぎ切り等下準備を行い、食後の食器拭き等お手伝いをして食事を楽しみにしている。	メニュー作成は職員がしているが栄養面のチェックは特にしていないとのことである。特別養護老人ホームの栄養士に相談することも可能とのことなので、今後は栄養士に確認してもらうことを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早めの言葉かけをし、失敗やパット使用を減らしている。	排泄の記録があり、個人のタイミングを把握している。排泄に関しては4名の方が自立しているとのことである。自らトイレに行きたいと申し出る方もいて、その時は仕事の手を止めて、すぐに対応するよう気がけているため、パットの使用量は減らせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後に体を動かしたり、個々に応じた運動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めているため、個々そった支援はできていない。	週2回、火曜と土曜の午前・午後に入浴を行っている。選択できる方には、午前・午後の希望を確認している。入浴剤を使用することで入浴を楽しむ方もいる。入浴を嫌がる方には、体重を測りに行きましょうとお風呂場へ誘導することで入浴できることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に応じて、室温などに配慮し適切に休息いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員に目を通してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下準備や食器拭き、洗濯物をたたんでもらって、利用者様の力を活かした支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ出かける支援はできていない。	熱中症の心配がなければ、事業所内の散歩等を行っている。外出制限されたことで、施設内でカキ氷やヨーヨー釣り、綿菓子等用意して夏祭りを開催したところ、利用者は大いに喜び童心に戻って楽しんでくれたとのことである。個人的な買い物は、ご家族にお願いしたり、事業所で代行を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失やトラブルを避けるため、利用者様が必要な物はご家族に依頼するか、ホームのほうで立て替えするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様、ご家族の希望で電話で話をしてもらったり、手紙をもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節に合った飾り付けをし、毎月の月末に次月のカレンダーの色ぬりをしてもらって季節感を取り入れている。	共有空間の壁は、利用者が色塗りしたカレンダーや職員が制作した季節の壁飾りなどで、明るい雰囲気になったとのことである。食後は毎回食堂の掃除を行っている。テレビは時代劇や相撲を好むとのことである。エアコンは施設で全体管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席の隣同士や前後で話がしやすいよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火を扱うもの以外で家で使用していた物や好きなものがあれば自由にもってきていただき、ご本人が居心地よく過ごしてもらっている。	使い慣れたテレビやテレビ台、椅子等を持ち込み居心地の良い居室づくりに配慮している。居室の温度管理は施設で行っているが、個別の対応もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒のリスクが高くない限り、できるだけ見守りだけで好きなことやできることをしている。		